



〒028-5133

岩手県二戸郡一戸町中山字軽井沢 49-33

電話:0195-35-2231 FAX:0195-35-2781 <三愛学舎ホームページ <https://www.sanaigakusha.net>>

子どもたちに願う姿

戦後の高度経済成長期の1966年、中央教育審議会から「期待される人間像」が答申された。すべての青少年を対象に「今後の国家社会における人間像はいかにあるべきか」を問うたものである。多方面から賛否両論の論議が飛び交った答申である。

「期待される人間像」……。子どもたちに過度の成長を期待し、子どもたちを追い詰めることにならないだろうかと心配される意見もあった。

三愛学舎はキリストの「愛」をモットーにしている学校である。「神を愛し」、「人を愛し」、「土を愛する」を看板に掲げている。

基本的には、個人の自由を尊重し、生徒たちに願う姿として、「喜びをわかち合い、希望をもって生活する人」を挙げている。

そのためにはどのような生徒に育ててほしいか、どのような力を育ててほしいかを掲げ、教職員共通で確認した。それが、以下の4つの力である。

- ・働きかける力 → 自分自身に働きかける力、他者に働きかける力等
- ・つながる力 → 他の人とつながる力、他の物とつながる力等
- ・感謝する力 → 心から「ありがとう」と思える力等
- ・楽しむ力 → すべては「楽しみ」から始まる

これら4つの力がお互いに関係しあって一人一人の生活を作っていく。

生活の中に教育的要素がたくさん潜んでいる。子どもの生活要求が基本になり、子どもたちの個性や自主性が尊重され、教師の自由が制限されない教育が大事である。

生活の中に、子どもたちの「楽しむ力」、「つながる力」、「働きかける力」、「感謝する力」が潜んでいないだろうか。



(学校法人 理事長 校長 澤谷常清)

新しい時代の教育課程

3年前に新校舎（本校舎）が完成、今年度専攻科棟が完成しました。新しく快適になりましたが、一番大切なのは教育内容の充実です。三愛学舎広報誌 第10号となる今号は、「新しい時代の教育課程」について特集します。

近年、また複雑で予測困難な社会となってきたと言われています。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会変化も重なり合って、直接的な対話の機会の減少、チャレンジする機会の減少、積極的に地域とつながる機会の減少、社会経験不足などにより感じます。

生徒像が変化してきました。今の生徒にとってより充実した学びを提供するため、2022年度より、本格的にカリキュラムマネジメントを進め、現状把握、本校の特色、強み等の再確認、コンセプトを決定し、願う姿（教育目標）を定め、教育課程編成の検討を行ってきました。

これまで大切にしてきたことを継承しつつ、既存の枠に生徒をはずし、生徒が選択し、挑戦し、楽しみ、やりがいを感じられる学校にするために生徒の意見も聴きながら真剣に考えてきました。まだまだ道の途中ですが、以下にこれまでの経過、新たな実践（今号は本科を中心に）を紹介します。

年度	新しい教育課程編成のために行ってきたこと
2022	三愛学舎の特色、強み、大切にしていることについて再確認（食・自然・5年間など）
2023	民間コンサルティングを導入し、三愛学舎の存在理由、目的、価値を自分たちで整理し三愛学舎コンセプト*1を決定
2024	教育課程編成を検討し、願う姿（教育目標）として「喜びをわかち合い、希望をもって生活する人」、「働きかける」「つながる」「楽しむ」「感謝する」の4つの力を定める
2025	願う姿（教育目標）を叶えるため教育課程編成を改編、新しい時間割のもと、教育活動を実践

*1 三愛学舎コンセプト

『こころにまき続ける、“希望の種”を』

- ・私たち三愛学舎は、恵まれた自然・環境、ゆったりとした時間のなかで、食・表現・対話を大切に、喜びをわかち合い、希望をもって生きる人を育てます。
- ・共に支え合いながら学び、人のこころに種をまき、人のこころをつなぎ、人のこころを動かし、互いが賜物と認め活かしあうことで、未来の可能性を広げます。



奥中山教会を訪問しての宗教の時間

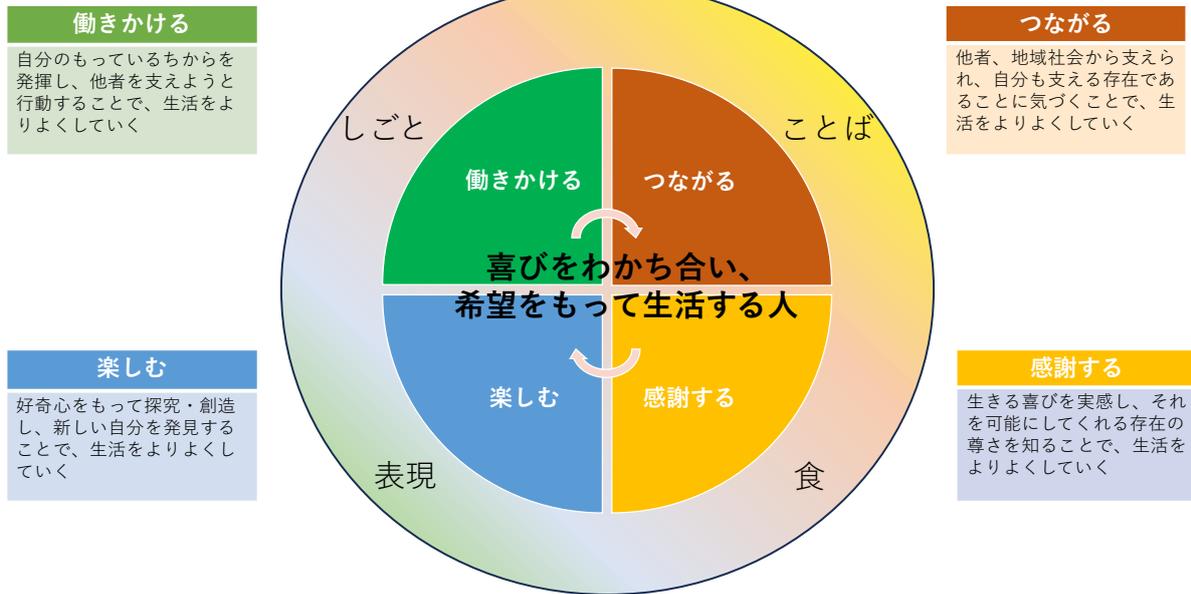


校地内での森 de アート



雪深い奥中山ならではの雪遊び

カリキュラム概念図「さんあいサークル」



新しい時間割

【本科】

	月	火	水	木	金
1	礼 拜	ウォーミングアップ			宗 教
2	総合探究 生活	体 育	表現創作	音 楽	総合探究 生活
3		生 活	生 活	生 活	
4		昼食、片付け、歯磨き、掃除など			
5	ワーク	ワーク	ワーク	サークル	帰りの会
6	帰りの会				

【専攻科】

	月	火	水	木	金
1	礼 拜	ウォーミングアップ			宗 教
2	表現創作	ワーク	総合探究	ワーク	ゼミ
3			特別活動		
4			総合探究		
	昼食、片付け、歯磨き、掃除など				
5	ワーク	ワーク	ワーク	サークル	帰りの会
6	帰りの会				

昨年度からの主な変更点

『ウォーミングアップ』は、昨年度までは本科『ランニング』、専攻科『体力づくり』でした。本科は従来のランニングの他、ウォーキングなど生徒のペースに合わせた活動を設定し、選択制にしました。

『総合探究』は、学年によっては生徒の「やってみよう」をマイプロジェクトとして伴走支援。授業時数を増やし、生活の時間とあわせて自由度をもたせています。

『表現創作』は、これまでは芸術として『生活』の中で行ってきたものを教科とし、全体・個人の制作、デジタル表現等の活動。

『ワーク』は、昨年度までは『作業』でした。何のために活動を行うのか、作った製品でどう他者、地域とつながるかをより意識するようにしました。

『サークル』の新設。興味関心があること（スポーツ、調理、芸術、音楽等）、本科、専攻科の異学年が一緒になり活動します。

本科執行部にインタビュー

今年度から教育課程が変わり、実際に生徒のみなさんがどのように感じているのか、本科執行部3名にインタビューしました。

司会：よろしくお願いします。今年度から時間割が新しくなりましたが、違いはありますか。

藤澤：私は『サークル』で「音楽」に所属し、トランペットを吹けるようにがんばっています。自分の好きなことができ、とても楽しい時間です。もっとうまくなりたいです。取り組める時間を増やしてほしいですが、ワークの時間がこれ以上少なくなるのも嫌なので、金曜日の放課後、長期休みなどにも活動したいです。

田頭：私は『サークル』では「運動」に所属していますが、普段関わらない生徒とも卓球を通して関わるようになりました。変わったことといえば、外部から川島さん（ミライト）が入り、『総合探究』でマイプロジェクトを行っています。みんな一人一人がイベントを企画しています。私は「逃走中」を企画し、とても楽しかったです。

田中：『サークル』は、バドミントンを行っています。楽しみに週末を迎えています。私も川島さんの授業で『総合探究』を行っています。あれやれ、これやれと指示される方が楽なので、『総合探究』はまだ自分がやりたいことがないので大変です。

藤澤：水曜日に『表現創作』の時間ができ、デジタル表現などいろいろな経験をさせてもらっています。『音楽』『体育』は、授業内容はあまり変わっていませんが、それぞれ先生の新しい試みもあって、いろいろ考えているんだなあと思うこともあります。

田中：『音楽』の時間は減りましたが、代わりに音楽部が結成され定期的に行われるコンサートが楽しいです。コンサート直前は緊張しますが、一回歌ったらやるしかないという気持ちになります。

司会：ありがとうございました。今年度から『作業』から『ワーク』に変わりましたが、何か違いを感じますか。

田頭：あまり感じませんが、地域とのつながりは大事にしているのかと思います。



本科2年生 田中大翔さん 本科3年生 田頭優さん 本科3年生 藤澤幸子さん



田中：私も所属が変わったので違いはあまり感じませんが、営業課長として『LET'S GO ここプロカフェ』に納品に行き、製品の説明をしてきました。

司会：3人とも昨年度と『ワーク』の所属が変わったので、違いが分かりづらいかもしれませんね。こちら側の働きかけも足りなかったと思うので意識していきますね。それでは、最後に藤澤さん、これからどんな学校になっていけばいいかお話しください。

藤澤：みんな元気で楽しく、個性を出せる学校です。生徒が自信をつけられるようになってほしいです。今、授業に出られていない人もいますが、授業に出ないからダメという訳ではありません。その人の魅力を活かせるようなことを行っていけば、もっと良くなると思います。また、先生と生徒が互いに話し合っただけで関係性を作っていくってほしいです。本気でぶつからないと見えない景色もあると思います。

司会：ありがとうございました。これからも三愛学舎の教育について考えていきましょう。



総合探究 ビンゴ大会

すがたをかえる大豆 ～三愛版 2025～

三愛学舎では、毎年種から育てた大豆を収穫し、味噌に加工して日頃の調理学習で味噌汁などに活用し食べています。そんな大切な大豆の可能性をもっと広げるためのプロジェクトを行いました。4月から9月までの前期は、さんあい学びフェスでの販売を目標に、きなこクッキーを作りました。46セット用意したクッキーは15分ほどで完売し、生徒たちも驚くほど大好評でした。完売が自信につながったのか、「豆腐を作りたい!」「またお菓子を作りたい!」などの希望ができました。それならばと、八幡平市にある「麴屋もとみや」さん、「ふうせつ花」さんを訪れ、実際に商品を購入、試食をして、美味しいフィールドワークを行いました。結果、「味噌せんべいを学校の味噌で作りたい」「豆腐は苦手だけど豆腐ソフトが食べられた。味噌ソフトもおいしかったから作れるのではないか」「大豆ミートで担々麺を作りたい」「豆腐を作って、それで油揚げも作りたい」などなど、やりたいことがたくさん出てきました。



そこで、プロジェクトの活動名を「すがたをかえる大豆～三愛版 2025～」とし、後期の活動を開始しました。（活動名は国語の教科書に掲載されている単元名からいただいています。）これまでに作ったものは、「豆乳」「豆腐メイプルソース」「おからワッフル」「豆腐」「油揚げ」です。油揚げを作ったときには、たくさんの方から、「油揚げって手作りできるんだ!」と驚きの声上がり、そんな油あげと豆腐と手作り味噌で作った味噌汁は大好評で、「自分も食べたい!」と希望者が殺到し

味噌、豆腐、油揚げ、全て三愛産



ていました。油揚げ作りに手を挙げたSさんは、「油揚げ作りをまとめて発表したい」と話し、職員の手助けを一切もらわずに一人でまとめを完成させました。やって楽しかった！で終わらずに、その過程も伝えたいと話してくれた彼女の姿に、「すがたをかえる大豆」の活動の未来を見せてもらった気持ちになりました。

この活動は作って終わりではなく、2025年版のまとめとして加工品のレシピや活動内容を何らかの形で残すことを目標にもしています。冊子になるのか、動画になるのかは生徒たち次第です。先達から大切にしてきた大豆の栽培、加工をこれからの生徒たちと共に新しい価値づけをしながら発展させ、新しい三愛学舎の魅力の一つになることを願っています。

(本科園芸主任 菅生あかね)

外部人材活用 ～本物の体験を～

昨年度より映像制作プロダクションの加藤嗣郎さんを講師に招き、希望者がデジタル表現を学んでいます。週1回の授業で、iPadを用いてショート動画を作成したり、生徒がInstagramに投稿したりしています。生徒から湧き出る表現の可能性を叶える場となっています。

また、今年度よりNPO法人 miraito の川島レラさんを講師に招き、本科2、3年生の総合探究の時間に授業を行っています。今年度より本科は総合探究の時間が増えましたが、これまで他校でも実績のある川島さんが授業を進めることで、生徒の興味関心の幅が広がっています。お二人から寄稿いただきました。

デジタル表現 「何を誰に伝えたいか」

人の可能性を引き出すために、Apple 創業者スティーブ・ジョブスは iPhone や iPad といった次世代コンピューターを次々と世に送り出しました。その中心にあったテーマは「人の生活を楽しくする」ことでした。私の学生時代にもパソコンの授業はありましたが、丸を描いたり四角を動かす程度で、深く学ぶ機会はほとんどなかったように思います。だからこそ 2000 年前後に発表された Apple の新製品は大きなワクワクをもって注目し、思い切ってパソコンを購入しました。能力もスキルも持たなかった私にとって、その一台は自分の知らない自分を発見し、それを生かす大きな力となりました。近年はデジタル製品があるのが当たり前で、何でもそろそろ豊かさゆえに、あの頃のワクワクを今の生徒たちが味わうのは難しいのかもしれない。



2023 年、三愛学舎のコンセプトムービー制作をきっかけに、26 年培ってきた映像制作の技術を伝

える機会をいただきました。それ以来、生徒たちの純粹さや精一杯生きる姿勢に触れるたび、心を動かされています。授業では主に iPad を用いて映像制作を行っています。今は誰もが映像を作れる時代ですが、自己満足に留まらず、人に喜ばれ、公に発表できる作品を目指してほしいと願っています。そのためにも、私自身が師匠から繰り返し教えられた「何を誰に伝えたいのか」を、今は私が生徒たちに繰り返し伝えていきます。この言葉は映像に限らず、あらゆることに通じる真理だと今、改めて実感しています。

また授業外でも、生徒たちが気軽に相談してくれるのが嬉しい瞬間です。まずは「あ、できた！」という小さな成功を積み重ね、新しい自分を発見してほしい。私もこの機会に感謝しつつ、精一杯向き合い、デジタルを通じて生徒たちが未来を生き抜く武器を手にするよう願っています。

(デレフデザイン 加藤嗣郎)

トキメキからはじまる探究の学び

最近トキメキを感じたのはいつですか？真っ青な青空を見たとき、光り輝く満月を見たとき、美味しいご飯を食べたとき、友達や家族と笑い合ったとき、感動した映画を観たとき。私は「誰かがトキメキを感じている瞬間」に立ち会うのが好きです。

はじめまして。沼宮内にて「いわてユースセンターミライト」という 10 代の居場所を運営しております、NPO 法人 miraito の川島と申します。2025 年度からは、三愛学舎の「探究」において、本科 2・3 年生の「好き」「やってみたい」という思いから生まれるプロジェクトの伴走をさせていただきます。



「探究」は 2022 年度より高校で必修化され、「変化の激しい社会において、自ら考え、課題を解決し、自分の生き方を見つめる力を育てること」を目的としています。私はそれを「自分の好きなことを、暮らす地域と掛け合わせて実践してみる学び」として捉えています。授業では、生徒一人ひとりの興味・関心や“好き”を見つけ、深め、形にしていく過程をサポートしています。三愛学舎のコンセプト「こころにまき続ける“希望の種”を」にも通じる取り組みだと感じています。

これまで実際に生徒さんと関わる中で、特に印象的だったのは、文化祭「さんあいカナン祭（さん

あい学びフェス）」での展示です。生徒が自らの探究テーマを来場者に伝え、コメントなどをもらいました。他の人からの声を受け取り、恥ずかしそうにしながらも笑顔で見ていた、トキメキの姿がとても印象的でした。自分の思いを表現し、他者と分かち合う経験は、これからの未来の可能性を広げるものだと感じます。

これからも、生徒の皆さんが自分のトキメキを大切にしながら、学びや日々の生活がより豊かで彩りあふれるものとなるよう、寄り添っていきたいと思います。

(NPO 法人 miraito 川島レラ)



プロジェクト 逃走中の様子



お知らせコーナー



森 de アート作品

伊藤忠記念財団助成事業(特別支援学校図書支援事業)

「伊藤忠記念財団」様の子ども文庫助成(特別支援学校図書支援助成)を活用し、図鑑、料理本、小説、児童書、科学漫画を購入させていただきました。

本との出会いで心が豊かになり、興味関心の幅が広がっていくことを期待しています。誠にありがとうございました。



みずほ教育福祉財団贈呈式

9月2日(火)、「みずほ教育福祉財団」様より助成金の贈呈式が本校で行われました。

同財団の教育事業部長 新井 豊 様が来校され、本科3年生の田頭優さんが代表として目録をいただきました。今年度の助成金では、薪割り機、プロジェクター、オープンレンジ、マイクスピーカーセットを購入させていただきました。これまでも教育活動を充実させるための機器備品等を贈呈いただいております。

長年にわたり、あたたかいご支援をいただきまして、心より感謝申し上げます。

Instagram 開設

今年度よりInstagramを開設しております。日頃の学習や行事の様子など更新しています。生徒がデジタル表現の時間に作成した広告も適宜載せていますので、ぜひご覧ください。



編集後記

今年度の広報誌は『新しい時代の教育課程』を特集しました。毎年「さんあいカナン祭」として開催してきた文化祭も「さんあい学びフェス」とサブテーマを設け、総合探究を中心とした日頃の学習の成果を発表しました。新しい試みでしたが、発表後の生徒の充実した表情が印象的でした。

教育課程とは少し異なりますが、新しい試みとして行った地域とのつながりについて紹介します。今秋、たくさんの方々に三愛学舎を知っていただくことを目的として、「さんあいマルシェ」を開催しました。地域の方々に声掛けし、フードコーナー、ワークショップ、読み聞かせ、地元書店の書籍販売、ピアノ教室の公開レッスンなどを行い、生徒も含めたくさんの方々に足を運んでいただきました。ワークショップコーナーでは、卒業生によるネイルコーナーもありとても楽しいひとときとなりました。全ての人々が三愛学舎に来ると元気になる、明日を迎えるのが楽しみになる、そんな学び舎をめざしていきたいです。
(副校長 岩崎)